

型枠業界の

技能者育成が急がれる

技能検定の事前講習会を開催

ACTIVE KUMIAI



実技講習にのぞむ組合員企業従業員

山梨県型枠工事協同組合(中込正明理事長)は、11月15日、16日の2日間、山梨県中小企業人材開発センター実習室において技能検定試験に向けた事前講習会を開催した。当日は、組合員の1級型枠施工技能士2名が講師となり、組合員企業の従業員を含め技能

検定試験受験予定者13名が参加して行われた。

技能検定は、労働者の有する技能を一定の基準により検定し、国として証明する国家検定制度であり、全国での技能士は累計で385万人、山梨県の技能士は29,281人、うち型枠施工技能士の資格は1級、2級含め102名に与えられており、確かな技能の証として各職場において高く評価されている。

1日目は技能検定試験の概要について座学が行われ、午後から実技試験の実習として型枠の組立作業を行った。2日目も引き続き組立作業が行われ、最後に完成品の検査と講評があり終了となった。

昨今の建設業界においては技能工不足が顕著となっており、技能士の育成を業界全体で行っていかねれば業界や事業の維持が困難になることも懸念されている。中込理事長は、「建設業界の低迷が続いてきたことにより、新規就業者が減少し従事者の高齢化が急速に進んでいる。仕事はあるにもかかわらず、技術者や職人不足が顕著となっている。技能士を育成することは、企業にとって顧客に対する高品質・高付加価値の製品やサービスを提供することをはじめ、技能士を増やすことで業務プロセス・生産性の向上や組織能力、ひいては競争力アップにつながる。」と語った。

技能検定は1月25日の本番を経て3月中旬に合格が発表される。合格率は例年一割程度となっているが、組合では事前講習会を開催したことで受講者全員の合格を目指しており、さらに、業界維持のために、組合内の講習会講師の育成も含め今後も続けていきたいと考えている。